

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
福島慎太郎			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
矢野 晋吾		青山学院大学 総合文化政策学部 総合文化政策学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	AYGa-180703-0	10人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

本実習授業では前期に受講学生が自らの関心に応じて主体的に社会調査のテーマを設定した上で、各自が調査を企画・実施した。そして、後期に各自の調査から得られた情報をデータ化・分析・解釈し、成果を本報告書にまとめた。実習全般を通して、学生は苦勞をしながらも主体的に調査を実施し、報告書を書き上げた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

現代社会の“消費”—「コト」「モノ」「時間」「空間」に着目して—

2. 調査の内容／概要：

本実習調査を貫く内容は「現代社会の“消費”」である。ここで本調査における消費とは、単に金・物・労力などを使って無くすことを意味するのではなく、それら「モノ」や「コト」さらには「時間」や「空間」の使い方を広く意味している。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

本調査の範囲／対象は各受講学生の関心に応じて多岐にわたる。量的調査を選択した学生の母集団は日本の若者（学生）、標本数は60程度、サンプリングはスノーボール・サンプリング法を使用した。質的調査を選択した学生の対象者選定は、理論的飽和を期して行われた。

4. 主な調査項目：

・「モノ消費」「コト消費」・「時間」「空間」の使い方

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

データ収集（現地調査）の方法は各受講学生の関心に応じて多岐にわたる。量的調査を選択した学生は、ウェブ・アンケート調査法を使用した。質的調査を選択した学生は、インタビュー調査およびフィールド調査（観察法）を使用した。この他、アーカイブ・データの二次分析を行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査の実施時期は夏休み期間中およびその前後であった。調査地は青山学院大学内、渋谷・東京・関東近郊の入浴施設および喫茶店、そしてインターネット上であった。調査員は各受講学生であった。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

ウェブ・アンケート調査の有効回収票数は約60、回収率はインターネット上で任意の協力を呼び掛けたものであるため不明である。インタビュー調査およびフィールド調査の質は、調査員の数が1人、調査の回数が各ケース1回のみであったため、必ずしも十分とは言えない。アーカイブ・データの二次分析における量・質は、年度および使用項目の範囲内に限定されるものであると言える。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

データ分析は、度数分布および記述統計量の算出をした上で、相関分析、回帰分析、t検定、分散分析、因子分析、クラスター分析を用いた。データ解釈は、談話内容および行動内容を文字ならびに数値にデータ化した上で、学生と教員が観点および構造を抽出した。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

- ・「コト消費」で得られる価値とは、人と人とのつながりで得られる価値である
- ・リアルな現実空間とSNSを介した仮想的なウェブ空間が相互に影響を与えながら人々の消費を促すようになっている
- ・地域観光は、個々人の「モノの所有」から人々の間の「コトの共有」を生み出す役割を果し得る
- ・公衆浴場ならびに喫茶店は、「半私半公」の場所として孤立した人同士をつなげる機能を果たしている

10. 報告書刊行の予定と概要：

報告書の刊行は、青山学院大学総合文化政策学部2019年度予算および構成員の意思決定に委ねられる。